

はしがき

挽 直治

本研究は、平成30年度日本大学経済学部産業経営一般研究（期間：平成30年4月1日から令和2年3月31日）の成果として、「負債の諸相への会計学からの接近—負債のオン・オフバランス化をめぐる実態と検討—」と題してまとめあげた報告書である。

本研究の目的は、本学部の会計スタッフ6名がそれぞれの研究テーマである会計制度、財務報告制度、会計史、地方自治体の監査、管理会計の視点にたつて、負債という側面からそれぞれの領域に固有の問題を取り出すとしたら、何が問題となるかを解明・究明することにあった。

研究当初の背景としては、必ずしも会計学の領域に限定せず、負債に関する近年の文献レビューを行った。そこでは債務問題を広範な視点から捉え、銀行・国家・マクロ経済を巻き込む危機が忍び寄る債務問題が論じられており、間接的ではあるが本研究プロジェクトに関連性がみられることを確認した。こうした問題に対しても会計学研究の意義が問われていることを認識した。

本報告書の序章にもあるとおり、「負債」という概念は、古来、共同体においてヒトとヒトとの関係をつなぐカギ概念として存在していた。一方、会計においては15世紀末の簿記の発祥をまって初めて、負債は債権債務関係を律する重要な概念として位置づけられ、現在に至ったのである。それは資金の調達源泉としての自己資本—株主資本—に対して、会計学においては従属的とはいえなくても、決して会計（学）の中心問題のひとつとして真正面から取りあつかわれてきたものではない。

ところが、近年、負債問題が株式会社会計（制度）においても、地方自治体、国などのパブリックセクターの会計（制度）においても、等しく議論を呼んでいる。その理由のひとつは、資本抛出と同様に資金を提供する債権者にとっても企業とパブリックセクターとの関係をこれまでも増して重要なステークホルダーとして位置づけられたことに求められるだろう。それはとくに次の2つの点にあらわれているといえよう。

一つは、すでに負債という概念は国内の会計基準においても国際会計基準においてもほぼ同様に扱われており、概念フレームワークのなかで、「負債とは、過去の事象の結果として経済的資源を移転するという企業の現在の義務である。（par.4.26）」と定義されている。しかし、いままた負債とはなにかが問われている。

本報告書においては、負債とは liability としてあらわされているが、一般には debt が使われ、また liability といっても、その境界を決めるものが義務、債務をあらわす obligation であるとすれば、それら用語の識別がいままた問題となっている。

もう一つは、上述した用語の問題と相まって、負債をめぐる新たな形態変化である。いままで会計（学）上、議論を呼んでこなかった新たな形態の負債、あるいは義務が顕在化して

きており、この問題に対して会計（学）はどのように対処すべきであろうか。

本報告書は、負債をめぐる上述したような問題状況のもとに、とりあえずは仮説—検証とう実証研究の方法ではなく、「負債の諸相への会計学からの接近」という観点から、すでに述べたとおり、すでに会計学研究でそれぞれ一定の成果を公表している研究メンバーからみた「負債の諸相」の一端を明らかにすることを通じて、つぎなるステップの一里程標とすることとした。

研究代表者および共同研究者による学会報告・発表論文

挽 直治（2018）「新年金制度会計への対応の模索」『会計』第194巻第4号，pp.40-50.

———（2020）「退職給付債務の分離をめぐる現状と課題」『会計』第198巻第1号，pp.15-27.

藤野雅史（2019）「管理会計『機能』のための人材育成」日本原価計算研究学会第45回全国大会報告，9月3日，於：成蹊大学.

石川恵子（2018）「小規模な市町村に対応した内部統制と監査のあり方—静岡県「監査事務の共同化」の検討事例からの考察」『地方財務』第769号，pp.85-98.

———（2020）「自治体クラウドの共同利用にみる地方自治体の持続可能な「組織」の可能性」『地方財務』第793号，pp.56-62.

今福愛志（2019）「公的年金給付の債務のオンバランス問題—国際公会計基準「社会給付」の債務概念に対する批判とその検討」『産業経営研究』第41号，pp.29-39.

———（2020）「交換取引と非交換取引の識別をめぐる公会計問題」『会計』第198巻第2号，pp.67-79.

古庄修（2018）「IFRS実務記述書「経営者による説明」の改訂の視点—より広い企業報告」と財務報告の境界問題—『会計・監査ジャーナル』第754号，p.76-86.

———（2019）「持続可能な開発目標（SDGs）と統合報告」『産業経営研究』第41号，pp.17-27.

村田直樹（2019）「鉄道の会計史」鉄道史学会第37回，9月22日，於：釧路公立大学.

———（2020）「運河の会計史」『産業経営研究』第42号，pp.1-10.